

愛知 県

愛知県美術館

木造不動明王立像（1 軀） 修理図解

凡

例



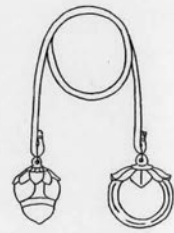
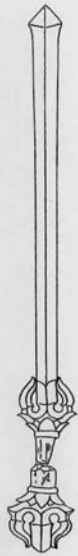
新
補



修
理

平成二十二年 度

正面



背面



仏像修理解説書

愛知県名古屋市中区東桜 1-13-2
愛知県美術館

種 類	名 称	員 数	摘 要
彫 刻	木 造 不 動 明 王 立 像	1 軀	

〔法 量〕 像 高 95.3cm

〔形 状〕

（本 軀）

頭頂に八葉の莎髻、巻髪、弁髪を左肩に垂れる。彫眼。左眼をすがめ瞼目、右下及び左上の牙を出し唇をかむ。耳朵環状せず、二道彫出。条帛をかけ、裳を著け、一段折り返す。腰布を巻き、結び目を正面に表す。臂釧、腕釧・足釧をつける。左手は垂下し、掌を内に五指を握り、綱索を執る。右手はかるく屈臂し、右腰前で掌を内に五指を握り持物（三鈷剣）を執る。両足を開いて岩座上に立つ。

（光 背） 亡失。

（台 座） 岩座及び框座。

〔品質構造〕

（本 軀）

桧材、寄木造、白土下地彩色、截金。彫眼。頭頂から耳後ろ、さらに軀側を通る両足後ろの線で前後二材を矧ぎ寄せ、頭軀を彫り出す。像内を内刳る。頭部を割り首にして、面を右に少し回して取り付け。この時、背面材の背中中央と首後ろに鋸を入れ、背中中央から首、後頭部、後頭部の首柄部のそれぞれを別材に取り替える。両足を一緒に膝上で前面材から割り足にする。左足は足柄を含めた足先と第一指、第五指に別材、右足は指先のみ別材矧ぎ。左裾他各所に小材を矧ぐ。両肩から先別材。左腕は肩から手先まで一材。右腕は肘上と手首で別材矧ぎ付。腰布先別材。

（台 座） 桧材 前後二材矧ぎ。

〔損傷状況〕

（本 軀）

- 1) 各所で彩色が白土下地から浮き上がり、剥落が進行中であった。
- 2) 矧ぎ目の後補修理部が見苦しく、尊容を害していた。
- 3) 右手首の矧ぎが緩み離れており、持物の剣の上部を取り付けられなかった。剣尻は右手内側で木屑漆を用いて手と接着されていた。また右肘の矧ぎ目も緩んでいた
- 4) 岩座の柄穴と足柄が合わず、像の立ちが不安定であった。

（台 座）

- 1) 前後の矧ぎ緩み亀裂が入っていた。

〔修理仕様〕

(本 軀)

- 1) 彩色の浮き上がりは、メチルセルロース(試薬M0293)2%水溶液と、メチルセルロースにアクリル樹脂エマルジョン(商品名 プライマール AC2235 原液 46%液を少量加えて強化したものを用いて、剥落止めを行った。
- 2) 後補の見苦しい箇所は一旦取り除き、木屑漆で修整し必要最小限の古色を行い尊容を整えた。その際、頭部の後補箇所を取り除いたところ、前後の矧ぎ目が離れたため、所有者と協議のうえ、一旦後頭部材を取り外し、像内の納入品を取り出し別保存して、再度後頭部材を膠で接着した。
- 3) 右肘と右手首の矧ぎと、持物と剣尻を一旦取り離し、肘と手首の矧ぎを接着したうえで、持物を安全に持てるようにした。
- 4) 岩座の納穴を修整し、像を安定良く立てた。

(台 座)

- 1) 前後の矧ぎは解体せず、亀裂からエポキシ樹脂(商品名 コシボンドクイックセッ ト)を差し入れ強化した。

以上の修理箇所は全て古色仕上げとした。

〔特記事項〕

- 1) X線撮影写真によって、像内背板に納入品と思われるものが貼られているのが知られていたが、後頭部材を取り外したことで、像内の納入品と像内の底にあった絵画断片を確認した。これらは所有者と協議して取り出し別保存とした。
- 2) 像内にあったものは次の通りである(写真参照)。
 - イ) 和紙に包まれた再興文書 一枚。
「明暦四年戊戌六月中旬再興也」「再興之佛師左京公」等の墨書がある。
 - ロ) 絵画断片 六片。

〔法 量〕

総 高 104.3 cm (本軀頭頂 ～ 岩座地付)
最大張 45.0 cm (本軀右肘外側～ 岩座右端)
最大奥 32.5 cm (岩座最大奥)

(単位 cm)

本		軀	
全 高	95.3	足先開 内側	14.2
像 高	95.3	足先開 外側	24.0
頂上～ 頸	17.1	足納高 左	4.8
髪 際 高	89.7	足納高 右	5.1
髪 際～ 頸	11.0	足納巾 左	2.2
面 巾	10.4	足納高 右	2.4
耳 張	14.6	足納奥 左	9.0
面 奥	14.1	足納奥 右	9.0
臂 張	39.3	胸 奥	15.4
裾 張	26.8	腹 奥	17.2
台		座	
岩座高 立脚部	8.7	岩座張 最大	39.5
岩座高 最大	8.8	岩座奥 最大	32.5

